

16. 平均寿命の都道府県格差に対する年代層・死因の関連

研究分担者 尾島 俊之（浜松医科大学医学部健康社会医学講座 教授）
研究協力者 中村美詠子（浜松医科大学医学部健康社会医学講座 准教授）
研究分担者 西 信雄（医薬基盤・健康・栄養研究所国際栄養情報センター センター長）
研究分担者 門田 文（滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 准教授）
研究協力者 佐田みずき（慶応義塾大学医学部衛生学公衆衛生学教室 助教）
研究協力者 近藤 慶子（滋賀医科大学 NCD 疫学研究センター予防医学部門 助教）
研究協力者 北岡かおり（滋賀医科大学 NCD 疫学研究センター予防医学部門 特任助教）
研究分担者 岡村 智教（慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学教室 教授）
研究分担者 由田 克士（大阪市立大学大学院生活科学研究科 教授）
研究代表者 三浦 克之（滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 教授）

【目的】

健康日本 21（第 2 次）において健康寿命の都道府県格差の縮小が目標のひとつとなっている。健康寿命の基礎となる平均寿命について、都道府県格差に対する年代層や死因の関連を明らかにすることを目的とした。

【対象と方法】

2015（平成 27）年都道府県別生命表及び人口動態統計特殊報告の都道府県別年齢調整死亡率（及び人口 10 万対年齢 5 歳階級別死亡率）を基礎データとして用いた。平均寿命と各年代層の関連については、例えば、40～64 歳の死亡を反映した平均寿命は、各都道府県の年齢階級別死亡率について、40～64 歳は各都道府県の値を、それ以外の年齢層は全国の値を用いて、Chang による年齢 5 歳階級別の簡略生命表を用いて平均寿命の算定を行って検討した。都道府県別平均寿命と、死因別年齢調整死亡率、各年代層の死亡を反映した平均寿命との相関分析を行い、決定係数（相関係数の 2 乗）を算定した。なお、心疾患と脳血管疾患を合計したものを循環器疾患とした。

【結果】

都道府県別の平均寿命と、各年代層の死亡を反映した平均寿命との決定係数について、0～39 歳は男 0.278、女 0.177、40～64 歳は男 0.780、女 0.498、65 歳以上は男 0.759、女 0.606 であった。死因別年齢調整死亡率との決定係数について、悪性新生物は男 0.607、女 0.347、循環器疾患は男 0.362、女 0.500、循環器疾患のうち心疾患は男 0.114、女 0.253、脳血管疾患は男 0.421、女 0.291 であった。

【考察】

平均寿命の都道府県格差には、40～64歳と、65歳以上の死亡状況が概ね同程度関連していた。一方で、0～39歳の死亡状況との関連は低かった。また、死因別年齢調整死亡率との分析では、男の脳卒中の関連は一定程度強く、女においては心疾患を合わせた循環器疾患との関連が強かった。また、男において悪性新生物との関連が強かった。

【結論】

平均寿命について、都道府県格差に対する関連として年代層では65歳以上だけでなく、40～64歳の死亡状況との関連が、死因としては悪性新生物及び循環器疾患との関連が明らかとなった。

第57回日本循環器病予防学会（大阪 2021年6月6日 発表抄録）